事業報告書

令 和 7 年 度

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

一般財団法人 青少年国際交流推進センター

目次

令和 7 年度事業の概況 2
１．青少年国際交流事業の企画、実施及び協力の概況 2
A. 青少年国際交流スタディツアーの実施 2
B. 国際交流リーダー養成セミナーの実施 3
C. 国際理解教育支援プログラムの実施 4
2. 内閣府等の実施する青年国際交流事業への協力 5
A. 内閣府の実施する青年国際交流事業への協力 5
B. 他団体の国際交流事業への協力 19
3. 青少年国際交流に関する啓発及び研修の概況 20
A 推進委員会議 20
B. 第 32 回青少年国際交流全国フォーラム 20
C. 団体会員のブロックイベント(青少年国際交流を通じて国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい) 21
4. 青少年国際交流に関する出版物の刊行及び広報活動の概況 21
A. 機関誌の刊行 21
B. 一般財団法人青少年国際交流推進センター事業報告書の作成 21
C. ホームページ・オンラインメディアの活用 21
D. 一般財団法人青少年国際交流推進センターパンフレットの配布 22
5. 青少年国際交流に関する情報収集及び調査研究の概況 22
A. 青少年国際交流事業に関する情報収集 22
B. 青少年国際交流に関する調査研究 22
6. 青少年国際交流に関する支援・コンサルティング等の概況 22
A. 活動奨励金等の交付 22
B. コンサルティング事業等 22
７．その他 22
「ありがとう。にっぽん丸」クルーズ 22

令和７年度事業の概況

１．青少年国際交流事業の企画、実施及び協力の概況

対面及びオンラインを活用したセミナーを実施

A.　青少年国際交流スタディツアーの実施

国際交流活動に関心と意欲のある青少年を各国に派遣し、ホームステイ等による交流、訪問国青年との交流や視察・調査等を通じ、青少年国際交流について理解を深めてもらうことを目的として実施している。

「タイ王国・スタディツアー2026」

本年度は、令和８年３月 23 日～31 日の８泊９日の日程で「タイ王国・スタディツアー2026」を実施し、大学生及び社会人を含む参加者８名と同行職員２名の合計 10 名が参加した。

このスタディツアーは、タイの児童養護施設 3 か所を訪れ子どもたちの生活環境を知ることと、現地で行われる子どもキャンプ「For Hopeful Children Project (FHCP) 2026」にボランティア・スタッフとして参加し、現地の実行委員と協働することを組み合わせた、（一財）青少年国際交流推進センター独自のプログラムである。子どもたちとは、生活や活動を通じてコミュニケーションを深めた。

FHCP は、「東南アジア青年の船」事業タイ既参加青年ウィスィット・デッカムトーン氏（Mr. Visit Dejkumtorn）が、自身のネットワークをいかして 1991 年に始め 30 年以上にわたり継続している慈善事業で、孤児や難民、障がいを持っているなど社会的に恵まれない状況にある子どもを、「希望あふれる子どもたち（Hopeful Children）」と呼んでいる。今回は、約 600 名の「希望あふれる子どもたち」をタイ王国海軍施設に招き、海水浴やさまざまなアクティビティを行った。参加者は、FHCP のボランティア・スタッフ約 100 名と共に運営に参加し、子どもと共に生活・活動することを通じて、国際協力活動を実践し、国際協調の精神を養った。FHCP 前には、彼らが生活する児童養護施設 3 か所を訪問し、子どもたちがおかれている状況について理解を深めた。

日程	活動	宿泊
３月 23 日	バンコク集合・準備研修	バンコク
３月 24 日～25 日	児童養護施設に宿泊、ボランティア活動や川遊びを体験	カーンチャナブリー県
３月 26 日	バンコク郊外の児童養護施設を訪問	バンコク
３月 27 日～30 日	子どもキャンプ FHCP に参加し現地ボランティア・スタッフと協働	チョンブリー県
３月 31 日	バンコクにて解散	

（左）カーンチャナブリー県の児童養護施設で子どもたちにかごの編み方を教わる
（中）カーンチャナブリー県の児童養護施設で子どもたちとソーラン節を踊る
（右）子どもキャンプ FHCP で子供たちと海水浴をする

B. 国際交流リーダー養成セミナーの実施

B-1 国際交流リーダー養成セミナーの実施

テーマ：“違いを楽しむ”から始まる共創：インクルーシブな国際交流の場づくり
主催：一般財団法人青少年国際交流推進センター
協力：日本青年国際交流機構（IYEO）、株式会社 An-Nahal
日時：令和７年６月 28 日（土）9：45～15：30
場所：当センター事務所
講師：株式会社 An-Hahal　Founder & CEO　品川　優氏
参加者：13 名（現地参加９名、オンライン参加４名）
内容：国際交流の場におけるインクルーシブ・リーダーシップの重要性と実践について学んだ。前半の講義では、DEIB（多様性、公平性、包括性、帰属意識）の定義を確認し、誰もが心理的安全性を感じられる場づくりの必要性に焦点を当てた。特に、無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）の存在を前提としたフェアな運営や、文化的知性の重要性を理解し、運営者自身が常に学びをアップデートし続ける姿勢の大切さを再認識した。
午後のワークでは、自身の経験を振り返りながら、具体的な配慮や工夫について、講師と参加者の壁を越えて議論した。問題発生時の対応として「アクティブバイスタンダー（行動する傍観者）」という概念を学び、事前に対処の仕組みを整える重要性を確認した。

参加者が発言しやすい場をつくって講義を実施

グループワークに取り組む参加者

講師の品川氏と参加者との集合写真→

B-2「イスラームを知ろう！」の実施

一般財団法人青少年国際交流推進センターは、2020 年以降、多様性の理解を促進するための一助として「イスラームを知ろう！」という名称で各種セミナー・イベント（有識者による講義・料理教室等）・スタディツアーを現在までに計 18 回実施し、参加者数は累積 410 名超となっている。

【第 16 回】4 月 25 日～4 月 30 日

「イスラームを知ろう！～UAE*現地体験スタディーツアー～」　*UAE：アラブ首長国連邦

昨年実施したUAEモニターツアーの結果を反映しツアー内容を整備し、本年度より一般展開を開始した（参加者9名と同行職員2名の合計11名が参加）。

イスラームの正しい理解と交流を目的に、UAE在のハムダなおこ氏に引続き現地コーディネータを委託し、推進センターと共同企画の上で実施した（催行は現地旅行社）。UAE建国の父の名を冠したシェイク・ザイード・グランド・モスクやUAE 最高学府の大学等各種施設の訪問、同国の一般的なイメージとは異なる広大な砂漠や山岳地帯の見学、現地学生との交流、伝統衣装体験や家庭訪問等、一般の観光旅行とは違う様々な体験、学びを通して参加者の多文化理解、国際交流を深めることができた。

カスルアルワタン（大統領官邸内迎賓館）

【第17回】 8月2日

「イスラームを知ろう！ ～“イスラームが誇る美術に触れる”アラビア語書道体験～」
場所：当センター事務所
協力：日本青年国際交流機構（IYEO）
講師：佐川信子　（アラビア語書家）
参加者：10名

参加者一人一人にアドバイスするアラビア語書道家の佐川氏

【第18回】 8月23日

「イスラームを知ろう！ ～ムスリムってなに？マスジド大塚で出会う人と暮らし～
モスク見学/炊き出し支援」
場所：マスジド大塚
共催：日本イスラーム文化センター / マスジド大塚
協力：日本青年国際交流機構（IYEO）
スピーカー：クレイシ・ハールーン
　　日本イスラーム文化センター事務局長
参加者：7 名

ホームレス支援として毎月実施される炊き出しで提供する
ビリヤニのお弁当詰め作業に参加

C. 国際理解教育支援プログラムの実施

内閣府青年国際交流事業既参加者等の在日外国青年及び内閣府青年国際交流事業に参加し、事後活動として国際理解教育に熱意を有する者を日本の学校等に派遣して、国際理解の推進に資することを目的として実施している。

【第 1 回】令和 7 年 10 月 18 日　茨城県立並木中等教育学校

5 学年（高校 2 年生）約 150 名を対象に、ファシリテーター1 名とディスカッション・パートナー7 名（アルバニア、オーストラリア、ブラジル、フィリピン、スリランカ、スイス、ウガンダ）を派遣。1 クラスを七つのグループに分け、各グループで自己紹介。七つのディスカッション・トピックに沿った各国事情を生徒が外国人ディスカッション・パートナーに質問した後、発表スライドを作成して発表。奇数・偶数グループに分かれてお互いの発表を聞いた。その後、ディスカッション・パートナーから生徒へフィードバックを行った。

生徒の発表を聴く外国人ディスカッションパートナー

【第 2 回】令和 7 年 10 月 20 日　品川区立清水台小学校

4,5 年生 85 名を対象に外国人講師 2 名（フィリピン、ベトナム）を派遣。外国人講師から自国の基本情報、伝統衣装、食文化、挨拶の言葉の紹介をした後、質疑応答。外国人講師の国の遊び等を児童に教えた。

ベトナムの伝統衣装を着て文化紹介する外国人講師

【第３回】令和７年 12 月 15 日　東京農業大学（厚木キャンパス）

１年生 50 名を対象に外国人講師１名（ブラジル）を派遣。「海外の文化・生物・草木・農業を知る」をテーマに外国人講師から自国の基本情報、文化、祭り、生物、草木、農業について紹介し、質疑応答を行った。

ブラジルで使用される器を回覧させる外国人講師

【第４回】令和８年１月 27 日　中野区立江古田小学校

５年生 90 名を対象に外国人講師２名（中国、フランス）を派遣。外国人講師から自国の基本情報、伝統衣装、食文化、挨拶の言葉の紹介をした後、質疑応答。児童は日本の観光地のプレゼンを行った。

中国の数字の数え方を教わる児童

【第５回】令和８年１月 29 日　東京都立立川国際中等教育学校附属小学校

１,2,3,4 年生 265 名を対象とした「多言語教育『マルチリンガルスタディ III』（深める）」の授業に外国人講師２名（ブラジル、インドネシア）を派遣。外国人講師から自国の基本情報、伝統衣装、食文化、挨拶の言葉を紹介し、質疑応答を行った。また、外国人講師の国の踊りや歌を児童に教えた。

ドラえもんの歌をインドネシア語で歌う児童

2. 内閣府等の実施する青年国際交流事業への協力

令和 7 年度「国際社会青年育成事業」、「日本・中国青年親善交流事業」、「日本・韓国青年親善交流事業」、「東南アジア青年の船」事業、「世界青年の船」事業に関する支援業務を内閣府との契約により実施した。

また、内閣府青年国際交流事業の既参加青年の活動を支援する「令和 7 年度青少年国際交流事業の活動充実強化における支援業務」についても内閣府と契約をし、青少年国際交流事業事後活動推進大会等の開催を行った。

A. 内閣府の実施する青年国際交流事業への協力

(1)国際社会青年育成事業

＜目的＞

国際社会や地域社会の担い手として、様々な社会課題の解決に向けて国際的視野を持って貢献できる人材を育成するため、世界各国が共通して抱える社会課題についてテーマを設定し、日本青年を当該テーマについて特徴的な取組を行う国々に派遣するとともに、当該派遣国の青年を我が国に招へいし、現地の青年とのディスカッションや文化交流等の活動を行う。

＜実施概要＞

(a)日本青年海外派遣

団長、副団長を含む日本参加青年等 30 名が、イタリア、ドイツ、フランスの３か国に分かれ、令和７年 9 月 14 日～23 日まで派遣されることに伴い、日本国内での研修、諸準備を行った。

項　目	内　容	月　日
研修	日本参加青年に対し、研修を下記のとおり行った。	

	事前研修	7月 10 日～12 日
	出発前研修	9月 12 日～13 日
	帰国後研修	9月 27 日～28 日
派遣活動	派遣期間中に日本青年団に不測の事態が生じ早期帰国することになった場合、日本国内の諸対応を実施することで内閣府と調整	9月 14 日～ 9月 23 日
外国青年との交流	東京プログラム	9月 24 日～26 日
事業評価アンケート	団長、副団長、日本参加青年に対し、事業評価アンケートを作成、実施及び集計をした。	9月 27 日

(b)外国青年招へい

イタリア（８名）、ドイツ（8 名）、フランス（8 名）の３か国からの外国参加青年 24 名の日本国内プログラムを令和７年９月 19 日～28 日に、東京都及び新潟県、鳥取県、大分県で実施した。

(ⅰ)東京プログラム（外国青年向け部分）

項 目	内 容	月 日
評価会、修了式	プログラム終了にあたり、評価会及び修了式を行った。	9月 27 日
事業評価アンケート	外国参加青年に対する事業評価アンケートを作成、実施及び集計をした。	9月 27 日

(ⅱ)地方プログラム

項 目	内 容	月 日
受入県会議	地方プログラムの訪問県の受入実行委員会の代表者と地方プログラムを実施するための会議をオンラインで実施した。	6月 16 日
地方プログラム	イタリア青年は新潟県を、ドイツ青年は鳥取県を、フランス青年は大分県をそれぞれ訪問した。訪問中には文化体験やホームステイ（2 泊 3 日）、地元青年とのディスカッションプログラムを実施した。プログラムの実施に当たっては、それぞれの県庁、日本青年国際交流機構並びに各地域の関係団体の協力を得て、その地域の特性をいかした内容で実施した。	9月 19 日～23 日

十日町小学校で児童と交流（新潟県）

ホームステイマッチング（鳥取県）

臼杵市街での着物体験（大分県）

(c)東京プログラム

令和７年９月 24 日～26 日、東京プログラムが開催され、国際社会青年育成事業の日本及び外国参加青年 54 名は「障害者」、「高齢社会」、「バリアフリー・ユニバーサルデザイン」の３テーマに分かれ、各コースのファシリテーターの進行のもと、それぞれディスカッションを行った。

項 目	内 容		月 日
テーマ別視察及びディスカッション	日本及び外国参加青年は、以下のテーマごとに視察及びディスカッションを行った。		９月 24 日～26 日
	障害者	視察先：株式会社舞浜コーポレーション	
	高齢社会	視察先：社会福祉法人江東園、社会福祉法人シルヴァーウイング	
	バリアフリー・ユニバーサルデザイン	視察先：東京都交通局、国立競技場、東京体育館	
副大臣表敬	内閣府庁舎にて、辻清人内閣府副大臣への表敬訪問を行った。		９月 24 日
文化交流レセプション	辻副大臣、イタリアのロカテッリ障害者担当大臣臨席のもと、文化交流レセプションを都市センターホテルにおいて開催した。		９月 26 日
成果発表会	全参加青年は２泊３日のディスカッションのまとめとして成果発表会を都市センターホテルにて行い、各テーマの成果を全員で共有した。		９月 26 日

東京プログラム、文化交流レセプションでの参加者集合写真

（ｄ）報告書等

項 目	内 容
報告書	内閣府青年国際交流事業報告書 2025 国際社会青年育成事業の編集、印刷及び発送を行った。
レポート集	令和７年度国際社会青年育成事業（日本青年外国派遣）参加者レポート集の編集、印刷及び発送を行った。

(2) 日本・中国青年親善交流事業

＜目的＞

本事業は、日本と中国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年育成活動等の社会貢献活動への寄与を目的としている。

＜実施概要＞

令和７年度事業は、東京都及び埼玉県で実施される日本プログラムと、中国の浙江省及び上海市で実施される中国プログラムの二つが「新しい働き方」、「文化と伝統」の２つをテーマとして実施された。日本青年代表団と中国青年代表団は両プログラムの期間中ともに行動し、交流を深めた。

(a) 第 43 回日本青年中国派遣

団長、副団長、渉外を含む日本参加青年等 20 名が日本プログラム（令和７年 11 月４日～11 月８日）、及び中国プログラム（令和７年 11 月９日～11 月 13 日）に参加することに伴い、日本国内での研修、日本プログラム実施に関する諸準備のほか、内閣府の行う中国プログラムの内容調整に関し、必要な情報提供及び支援を行った。

項　目	内　容	月　日
副団長・渉外会議	日本・中国青年親善交流事業の副団長・渉外会議を実施した。	７月７日
研修	日本参加青年に対し、研修を下記のとおり行った。	
	事前研修	７月 10 日～12 日
	出発前研修	11 月３日～４日
	帰国後研修	11 月 14 日

(b) 日本プログラム

団長、副団長、渉外を含む日本代表青年団 20 名と、団長、秘書長を含む中国青年代表団 20 名が日本プログラム（令和 7 年 11 月 19 日～11 月 23 日）に参加する事に伴い、諸手配並びにプログラム本番での運営支援を行った。

項　目	内　容	月　日
東京プログラム	両国代表青年団はテーマに関する施設訪問、ディスカッションを行った。 訪問先：（株）パソナ JOBHUB	11 月４日～５日
歓迎会	津島淳内閣府副大臣主催歓迎会がホテルグランドヒル市ヶ谷で開催され、日本青年代表団も参加して中国青年代表団を歓迎した。	11 月５日
成果共有会	両国青年は、成果共有会にてディスカッションの内容を発表し、互いに成果を共有した。	11 月５日
埼玉プログラム	両国代表青年団は埼玉県のさいたま市、並びに川越市を訪問した。	11 月６日～８日
表敬訪問	両国代表青年団は堀光敦史埼玉県副知事へ表敬訪問した。掘光副知事からは埼玉県と中国の交流に	11 月６日

	関するお話をいただいた。	
施設訪問	石坂産業（株）、川越市グリーンツーリズム拠点、川越市街、金笛しょうゆパークを訪問し「新しい働き方」、「文化と伝統」の各テーマに関して学んだ	11 月 6 日～8 日
歓迎会	埼玉県青年国際交流機構による歓迎会が開催され、両国青年代表団が参加した。来賓として、森田初恵川越市長、島村克己埼玉県県民共生局長が臨席された。	11 月 6 日

両国青年で通訳を交えディスカッション

東京での歓迎会

堀光敦史埼玉県副知事への表敬訪問

(c)中国プログラム

団長、副団長、渉外を含む日本代表青年団 20 名は、令和 7 年 11 月 9 日～13 日の日程で中国プログラムに参加した。

項　目	内　容	月　日
表敬訪問	浙江省青年連合会李蓮萍主席および浙江省青年連合会邢博秘書長へ表敬訪問を行った。	11 月 9 日
施設訪問	杭州人工知能タウン、デジタルノマド交流ラウンジ、浙江一景エコ牧場を視察。西湖、安昌古鎮、魯迅故里、黄酒博物館などの施設を訪問した。	11 月 10 日~13 日
日中代表ユースフォーラム グローバル文明イニシアティブ国際青年フォーラム	基調講演やパフォーマンスへ参加、グループディスカッションを実施し、その成果発表会が浙江工商大学で実施された。	11 月 10 日
在上海総領事館訪問	岡田勝在上海日本国総領事・大使へ表敬訪問を行った。	11 月 13 日

杭州市内視察で人工知能タウンを訪問

グループディスカッション

日中代表ユースフォーラム（浙江工商大学）

(d)報告書等

項　目	内　容
事業評価アンケート	日本参加青年並びに中国参加青年に対し、事業評価アンケートを作成、実施及び翻訳、集計をした。
報告書	『内閣府青年国際交流事業報告書 2025　第 43 回日本・中国青年親善交流事業』の編集、印刷及び発送を行った。
参加者レポート集	『令和７年度　第43回日本・中国青年親善交流事業（日本青年中国派遣）参加者レポート集』の編集、印刷及び発送を行った。

(3) 日本・韓国青年親善交流事業

＜目的＞

本事業は、日本と韓国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年健全育成活動等の社会貢献活動への寄与を目的としている。

＜実施概要＞

(a) 日本青年韓国派遣

韓国に、団長、副団長、渉外を含む日本参加青年 25 名が令和７年 10 月 20 日～29 日まで派遣されることに伴い、日本国内での研修、諸準備のほか、内閣府の行う派遣国活動のプログラム調整に際し、必要な情報提供及び支援を行った。

項　目	内　容	月　日
団長・副団長・渉外会議	日本・韓国青年親善交流事業の団長・副団長・渉外会議を実施した。このほか、日本国内の研修の際に同会議を適宜開催した。	６月 30 日
研修	日本参加青年に対し、研修を下記のとおり行った。	
	事前研修（合宿形式）	７月 10 日～12 日
	出発前研修	10 月 18 日～19 日
	帰国後研修	10 月 30 日
日本青年韓国派遣の訪問国活動に関する支援業務等	(i)　内閣府が韓国政府機関等及び日本国大使館と行う日程協議に際し、訪問先や日本参加青年の要望に関する情報提供等の支援業務を行った。 (ii)　韓国語による派遣活動日程最終案を和訳して資料を作成し、日本参加青年及び内閣府等に配布した。 (iii)　日本参加青年の急病等不測の事態が生じた場合にその対応について内閣府に協力することとした。	派遣国活動： 10 月 20 日～29 日
事業評価アンケート	帰国後の団長、副団長、渉外及び日本参加青年に対し、事業評価アンケートを作成、実施及び集計をした。	回収期間： 10月30日～11月13日

ディスカッション講座で韓国人留学生と討論（事前研修）

韓国青少年活動振興院を訪問（派遣国活動）

韓国の地元青年と交流（派遣国活動）

(b) 韓国青年日本招へい

韓国 25 名の日本国内プログラムを令和 7 年 11 月 18 日～27 日までの 10 日間、東京都、大阪府及び山形県で実施した。

(i) 東京プログラム

項　目	内　容	月　日
表敬訪問	韓国青年は南順子内閣府青年国際交流担当室長を表敬訪問し、プログラムへの期待等に関する質問を受けた。	11 月 19 日
事業評価アンケート	帰国後の韓国参加青年に対し、事業評価アンケートを作成、実施及び集計をした。	11 月 27 日

(ii) 日韓青年親善交流のつどい

項　目	内　容	月　日
日韓青年親善交流のつどい	東京都にある第一ホテル両国において、日韓青年親善交流のつどいを開催した。参加者は、韓国青年代表団、日本青年韓国派遣団、日韓青年親善交流のつどい実行委員の約 60 名であった。 本年度は「같이 있는（カチ インヌン） 価値、未来へつなぐ약속（ヤクソク）」と設定した。日本語にすると「一緒にいることの価値、未来へつなぐ約束」であり、日韓青年親善交流のつどいを通じて「一緒にいることの価値」に気付き、共に過ごす間に多様な「約束」をし、「未来」でその「約束」を果たして欲しいという願いを込めた。 プログラムは、ディスカッション及び日韓国交正常化 60 周年記念青年交流レセプションのほか、実行委員が企画したレクリエーションや文化体験等で構成された。 ディスカッションでは、10 月に韓国で開催された「日韓青少年交流会」におけるディスカッションに引き続く一連のプログラムとして実施し、五つのテーマで討論し、最終成果として「日韓青年 AGENDA25」を提示した。 レクリエーションでは日韓両国の青年が交流を深めるためのアイスブレイクやゲームが行われ、文化体験では 4 種類のブースが設置され、両国青年が共に楽しみながら互いの文化を知る機会になった。 日韓両国の青年たちは、このような様々な活動を通じて互いに友好と理解を深めた。	11 月 25 日～27 日

(iii) 地方プログラム

項　目	内　容	月　日
地方プログラム	大阪府及び山形県の両県で行った。訪問府県、日本青年国際交流機構並びに関係団体の協力を得て、大阪府では地元青年とのディスカッション及び文化体験、山形県ではホームステイ及び文化体験を中心にプログラムが組まれ、各地域の特色を存分に感じられる内容であった。	11 月 19 日～24 日

参加者全員で記念撮影
（日韓親善交流のつどい）

地元青年とディスカッション
（地方プログラム）

花笠おどりを体験
（地方プログラム）

(b) 報告書等

項　目	内　容
報告書	『内閣府青年国際交流事業報告書 2025　令和７年度日本・韓国青年親善交流事業』の編集、印刷及び発送を行った。
参加者レポート集	『令和７年度日本・韓国青年親善交流事業（日本青年韓国派遣）参加者レポート集』の編集、印刷及び発送を行った。

(4) 第 49 回「東南アジア青年の船」事業

＜目的＞

本事業は、日本及び東南アジア諸国連合の青年が、各種の交流活動を行うことにより、青年相互の友好と理解の促進、青年の国際的視野の拡大、国際協調精神のかん養及び国際協力における実践力の向上を図り、もって国際化の進展する社会の各分野で指導性を発揮することができる次世代リーダーを育成することを目的としている。令和７年度は、船上及び訪問国において各種の交流活動を実施した。

＜実施概要＞

(a) 参加者人数

項　目	内　容
日本	ナショナル・リーダー１名、参加青年 19 名
ASEAN10 か国	ナショナル・リーダー各国１名、参加青年各国 16 名 （ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア王国、インドネシア共和国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、フィリピン共和国、シンガポール共和国、タイ王国、ベトナム社会主義共和国）

	ナショナル・リーダー１名、参加青年６名（東ティモール民主共和国） 合計 160 名

(b) 事業日程

項　目	月　日
日本参加青年事前研修	９月 12 日～16 日
日本参加青年出航前研修	令和８年１月 13～15 日
対面交流	令和８年１月 15～２月 17 日
日本参加青年事後研修	令和８年２月 17 日

(c) 対面交流プログラム内容

①日本国内活動１

項　目	内　容	月　日
参加者代表者による内閣府総理大臣表敬訪問		令和８年１月 16 日
参加者代表者による秋篠宮佳子内親王殿下御引見		令和８年１月 22 日
地方プログラム	全国５県（岩手県、千葉県、富山県、徳島県、長崎県）のうち、SG ごとに１か所を訪問し、ホームステイや地元青年との交流を通じて、地方の理解に繋げた。	令和８年１月 17 日～20 日
課題別視察	ディスカッション・テーマに沿った関連施設への訪問を通し、日本の事例を学び、テーマに対する知見を深めた。	令和８年１月 23 日
文化交流プログラム	参加 11 か国にそれぞれ一つのブースを割り当て、各国 PY が駐日大使館の協力を得て準備し、各国の文化等を紹介した。	令和８年１月 23 日
船内公開・出航式	東京港からの出向に先立って、にっぽん丸の船内公開を行った。 水野敦内閣府政策統括官の代読により、黄川田仁志内閣府特命担当大臣からの激励の言葉をいただいた。	令和８年１月 26 日

②船内活動

項　目	内　容
ディスカッション活動	日 ASEAN 友好協力に関する共同ビジョン・ステートメント 2023 実施計画（2023 年 12 月 17 日）にて各国首脳が合意した事項を基に、６つのディスカッション・テーマを設けた。 1. 質の高い教育 2. 経済成長と持続可能で責任ある観光

	3. 地球環境と気候変動 4. 防災と復興 5. 社会福祉と包摂的な社会の実現 6. デジタル社会と人工知能（AI） 参加青年はテーマごとにグループに分かれて、ファシリテーターの指導の下、ディスカッションを行った。
事後活動セッション	ディスカッション活動の成果を活かし、事後活動への積極的な参加の促進、事後活動組織のネットワーク強化等を目的として実施した。
ピア・ラーニング・セミナー（PL セミナー）	PL セミナーは、参加青年がこれまで勉強してきたこと又は経験してきたこと等について比較的少人数の仲間と共有又は議論する活動として実施した。参加青年は、PL セミナー６セッションの全てに、主催者又は参加者として、それぞれ一つずつの PL セミナーに参加した。
ソリダリティー・グループ（SG）活動	PY 相互の理解と友情を深めることを目的とした活動であり、主に SG 対抗や全員参加形式のレクリエーションを行った。
ナショナル・プレゼンテーション	PY が音楽・舞踊・劇・説明・ビデオ等を用いて、自国の文化・伝統・歴史・国民性・現在の青年を取り巻く環境等を紹介することにより、参加各国についての理解を深めること等を目的として実施した。

③訪問国活動

項　目	内　容	月　日
シンガポール共和国	初日、参加者代表者はシンガポール文化・コミュニティ・青少年省代理大臣への表敬訪問をし、参加青年は歓迎夕食会に参加した。翌日は、６つのディスカッション・グループのテーマに沿って、ラーニング・ジャーニー（課題別視察）が実施された。３日目、全体でラーニング・ジャーニーが実施された後、一般家庭における２泊３日のホームステイを体験した。	令和８年２月４日～8 日
タイ王国	初日、歓迎式典及び歓迎夕食会が実施された。翌日は、４つのグループ SG ごとに分かれ、観光地及び関係機関の視察が実施された。３日目からは一般家庭における２泊３日のホームステイを体験した。５日目には、ディスカッション成果発表会、サマリー・フォーラム、解散式、解散交歓会が実施された。翌日、それぞれ帰国の途についた。	令和８年２月 11 日～16 日

シンガポールでのラーニング・ジャーニー

タイでホストファミリーと対面

ナショナル・プレゼンテーション

(d) 報告書

『内閣府青年国際交流事業報告書　令和７年度「東南アジア青年の船」事業』の編集（日本語・英語）を行った。

船内での参加青年集合写真

(5)「世界青年の船」事業

＜目的＞

現在、あらゆる分野で国境を越えた協力・調整・交渉が不可欠となっており、その対応を牽引・指導する次世代リーダーが求められている。こうした観点から、「世界青年の船」事業は、世界各地から集まった参加青年に、ディスカッションや参加青年主体のワークショップ、文化交流を通して、異文化対応力、コミュニケーション力、リーダーシップ、マネジメント力などを向上させる機会を提供するとともに、国境を越えた強い人的ネットワークの構築を図ることを目的として実施されている。

＜実施概要＞

（a） 参加国・参加者数

項　目	内　容	
参加国	カメルーン共和国、カナダ、チリ共和国、ドミニカ共和国、ギリシャ共和国、ジャマイカ、モンゴル国、モザンビーク、ニュージーランド、パラオ共和国、スペイン王国(11 か国)	
参加者数	日本	ナショナル・リーダー（NL） 1 名、サブ・ナショナル・リーダー（SNL） 1 名 参加青年（PY）78 名
	日本以外の各国	ナショナル・リーダー（NL）11 名（各国 1 名） 参加青年（PY）85 名（各国約 8 名）

（b） 事業日程

項　目	月　日
日本参加青年事前研修	9 月 12 日～16 日
対面交流	令和 8 年 2 月 15 日～ 3 月 12 日
日本参加青年事後研修	令和 8 年 3 月 13 日～14 日

（c） 対面交流プログラム内容

①船上プログラム

項　目	内　容
コース・ディスカッション（CD）	多くの国が直面している共通の課題に関するアカデミックな８つのテーマに分かれて、ファシリテーターの指導の下、ディスカッションを行った。 CD-1：気候変動と再生可能エネルギー CD-2：ウェルビーイングのためのエンターテインメント CD-3：自然災害に対するリスク管理 CD-4：共生社会 CD-5：スタートアップとインパクト投資 CD-6：地域コミュニティの中での教育 CD-7：コミュニティデザイン CD-8：伝統文化の次世代承継
ナショナル・プレゼンテーション	参加国ごとに、自国の歴史、文化、伝統芸能そして政治や経済等の社会全般について紹介することで、参加青年が相互に各国について理解を深めるとともに、参加青年がナショナル・プレゼンテーションの準備を通じて自国の特徴について再認識することを目的として実施された。
ピア・ラーニング・セミナー	参加青年が主催するセミナーで、主催者自身の学習分野や経験を参加青年と共有し、議論する活動として、実施された。全参加青年はピア・ラーニング・セミナーの各コマにおいて、主催者あるいは参加者となり、参加者は当日参加したいセミナーに自由に参加することができた。
クラブ活動	参加青年が主催する活動で、参加青年個人または数名のグループにより、自らの関心や専門性をいかした活動を自由に企画し、参加者を募り、実践する活動として実施された。
事後活動セッション	日本青年国際交流機構（IYEO）とSWYAA 国際連盟の代表として４名が、３回の事後活動セッション、及びその他の事後活動促進に繋がる自主活動の担当として派遣された。参加青年は事後活動セッションを通じて、下船後の社会貢献活動のアイデアの企画、共有等を行った。

②地域訪問活動

項目	内容	月　日
沖縄県	表敬訪問、施設訪問、視察、文化体験及び地域青年との交流等を行った。	令和８年２月 23 日～25 日

③地域実践活動

項　目	内　容	月　日
愛知県	船上でそれぞれのコース・ディスカッションのテーマとして設定された社会課題について議論し、知見を深めた参加青年たちが、愛知県で実際に社会課題の解決について取り組む地域の人々との協働を通じて、社会課題の解決法について考える活動として実施された。	令和８年２月 28 日～3 月４日

④東京プログラム

内　容	月　日
参加者代表者による佐藤啓内閣官房副長官表敬訪問	令和８年３月 12 日
参加者代表者による秋篠宮佳子内親王殿下御引見	令和８年３月 12 日
サマリー・フォーラム：事業から得られた成果について、主にコース・ディスカッションの学びとコミットメントを報告した。	令和８年３月 11 日

首里城の説明を聴く（沖縄県）

豊田産業博物館の操業体験（愛知県）

ナショナル・プレゼンテーション

（d）報告書

「内閣府青年国際交流事業　令和７年度「世界青年の船」事業 報告書」（日本語・英語）の編集を行った。

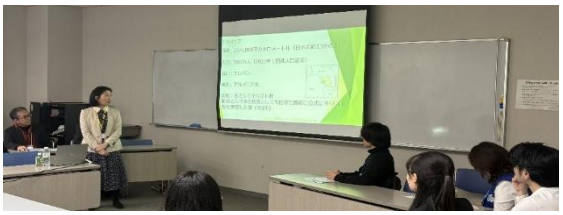
船上での参加青年集合写真

(6) 青少年国際交流事業の活動充実強化における支援業務

(a) 青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい（ブロックイベント）の開催

全国の４ブロックにおいて、内閣府及び地方公共団体が行う青少年国際交流事業の既参加青年、国際交流に関心のある青少年等が、事後活動に関する情報交換や地域、職域の特色をいかした事後活動について意見交換を行うことにより、地域における既参加青年等のネットワークを強化し、国際交流活動や青少年の育成活動を活性化させることを目的に、令和７年度は次のとおり開催した。

ブロック	開催県	内容	日付
東海ブロック	静岡県	対面	７月５日
北海道・東北ブロック（全国大会）	青森県	ハイブリッド	10 月 25 日
中国ブロック	広島県	対面	12 月 13 日
関東ブロック	東京都	対面	令和８年３月 14 日



ブロックイベントでの基調講演や分科会の様子

(b)青少年国際交流事業事後活動推進大会の開催

全国から内閣府及び地方公共団体等が行う青少年国際交流事業の既参加青年等が集まり、各地域における事後活動の推進状況を報告するとともに、既参加青年等の全国的なネットワークの構築など事後活動を更に充実させるための方策について積極的に意見交換を行うものである。

大会	内容	日付
青少年国際交流事業事後活動推進大会	既参加青年相互の交流と研さんを図り、今後の国際交流活動及び地域社会における諸活動の推進に貢献するため、青森県（ハイブリッド）で開催し、全国から155名が参加した。なお、この大会の第1部は日本青年国際交流機構第41回全国大会と併せて開催されたものである。	10月25日

青少年国際交流事業事後活動推進大会での集合写真

(c)青年国際交流事業事後活動推進全国代表者会議の開催

内閣府青年国際交流事業の説明及び日本青年国際交流機構の活動状況に関する報告と、その活動を踏まえた情報交換並びに国際交流及び国際親善についての意見交換を行い、国際交流活動や青少年育成活動を活性化することを目的として、日本青年国際交流機構幹事会構成員及び都道府県青年国際交流機構代表者の出席のもとハイブリッド及びオンラインで行った。

項目	内容	日付
青年国際交流事業事後活動推進全国代表者会議	ハイブリッド	10月24、25日
	オンライン	令和8年3月15日

(d)内閣府青年国際交流事業説明会の実施

内閣府が実施する青年国際交流事業の概要説明や既参加青年が体験談等を報告する事業説明会を令和8年2月18日～3月23日に5回実施した。実施に当たっては、既参加青年の協力を得て、事業参加を通じて得た気づきや学び、事業参加後の活動、グローバルリーダーシップに対する意見を報告会参加者に伝えた。

項目	内容	日付
内閣府青年国際交流事業説明会	オンライン	令和８年２月 18 日
内閣府青年国際交流事業説明会	オンライン	令和８年２月 27 日
内閣府青年国際交流事業説明会	オンライン	令和８年３月５日
内閣府青年国際交流事業説明会	オンライン	令和８年３月 17 日
内閣府青年国際交流事業説明会	オンライン	令和８年３月 23 日

(e) 青年国際交流事業事後活動年次概要・資料集及び募集広報用冊子の作成・発送

作成物	内容
内閣府青年国際交流事業及び事後活動年次概要・資料集	内閣府青年国際交流事業の概要、歴史、実績及び参加青年の事後活動を紹介した「内閣府青年国際交流事業及び事後活動年次概要・資料集」を編集及び印刷し、関係箇所に発送した。
内閣府青年国際交流事業事後活動ニュース	内閣府青年国際交流事業の事後活動に関する原稿の作成及び印刷し、関係箇所に発送した。

(f) 既参加日本青年フォローアップ調査の実施

内閣府青年国際交流事業既参加青年の事後活動に関する意識調査を実施した。調査事項は、青年国際交流事業への参加による意識の変化、青年国際交流事業参加の成果とし、対象は平成 22 年度、令和 6 年度の事業参加者とした。

(7) その他

(a) 内閣府青年国際交流事業参加青年の選考における支援業務

内閣府青年国際交流事業の参加青年の選考が、ウェブ会議システム等を利用して実施され、その際の選考の過程におけるウェブ会議設定及び副面接官・英語面接官の手配などの支援業務を行った。

(b) DeepL Pro 有料ＩＤの契約にかかる支援業務

内閣府青年国際交流事業の交流対象国政府機関職員との調整に当たって、外国語（英語を含む十数か国語を使用）を用いたメール・文書を手交するに当たり業務の参考にするための翻訳アプリケーションの契約の支援業務を請け負った。

B. 他団体の国際交流事業への協力

(a) 公益財団法人 統計情報研究開発センター (以下、シンフォニカ) 関連事業

第３回 アフリカ諸国統計職員招聘事業（金丸三郎記念国際交流事業）

2025 年 4 月 14 日～26 日、アフリカ 13 か国（カメルーン、エジプト、エスワティニ、エチオピア、ガーナ、マラウイ、モーリシャス、ナイジェリア、ルワンダ、セーシャル、タンザニア（本土）、タンザニア（ザンジバル）、ザンビア）から 14 名の研修生が訪れ、東京都、京都府、奈良県、名古屋市にて、統計関係情報講座、表敬訪問、関連施設視察等を行いました。

2025 年度 統計・DX 次世代リーダー交流事業 NextStatX2025

2025 年 6 月 2 日～13 日、昨年に続き「統計・DX 次世代リーダー交流事業」をシンフォニカと推進センタ

ーにて共催で実施した。本事業は、IT スタートアップが多く育ち、DX 分野においても先進的なラトビア共和国の青年を日本に招へいし、統計やデータサイエンス、DX などに関する互いの国の取組みについて情報交換及び討議することで、統計や DX などの分野における両国の発展に寄与し、将来に渡りラトビアと日本の架け橋として指導性を発揮する青年育成とを目的としている。招へい者は、ラトビア中央統計局職員 2 名、統計・データサイエンス・DX・IT に興味を持つラトビア共和国青年の計 8 名で、東京都及び大阪府を訪問した。参加者の募集並びに、「2025 年日本国際博覧会」（万博）見学等の大阪プログラム作成にあたっては、関西日本ラトビア協会に協力をいただいた。

第５回 アセアン・南アジア統計職員招聘事業（石橋信夫記念国際交流事業）

2025 年 8 月 25 日～ 9 月 12 日、アセアン：南アジア諸国の 14 か国（バングラデッシュ、ブルネイ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、モルディブ、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナム）から 14 名の研修生が訪れ、東京都、千葉県、京都府、奈良県、名古屋市にて各種研修を行いました。

3. 青少年国際交流に関する啓発及び研修の概況

A 推進委員会議

１．第 1 回会議

開催月日 10 月 25 日

開催場所 青森県青森市 ハイブリッド開催

一般財団法人青少年国際交流推進センター事業報告及び計画等

1 令和 7 年度内閣府との青年国際交流事業関連の契約

2 自主事業

3 活動奨励金交付要領並びにブロック会議等に対する補助金の交付について

4 その他（国内旅行保険・ボランティア保険）

5 IYEO とセンターの連携強化

２．第 2 回会議

開催月日 令和 8 年 3 月 15 日

場 所 オンライン開催

一般財団法人青少年国際交流推進センター事業報告及び計画等

1 令和 7 年度内閣府との青年国際交流事業関連の契約

2 個人会員（推進委員に対する旅費支給）、団体会員（活動奨励金）について

3 推進センター令和 7 年度下半期報告及び令和 8 年度の予定について

4 その他（源泉徴収について）

B. 第 32 回青少年国際交流全国フォーラム

全国各地で国際交流活動に携わる指導者及び青年を対象に、学識経験者の講演及び各地域における青少年国際交流活動に関する事例発表、討論等を行うもので、日本青年国際交流機構の第 41 回全国大会青森大会第 2 部とともに、ハイブリッドにおいて参加者 155 名を得て開催した。(10 月 25 日)

【内容】

１．事業参加報告/「Next Local Heroes-未来を拓く 5 分間」

内閣府青年国際交流事業の参加経験を有する若者による体験報告と、地域で挑戦を続ける若者や団体による 5 分間のショートプレゼンテーションを実施した。 青年国際交流事業を通じて得た学びや気づきが、その後どのように地域での活動や実践につながっているのかを共有するとともに、現在進行形で地域に関わる若者の声を直接届けることを目的として行われた。 登壇者からは、国際交流事業への参加経験を通じて得た視点や価値観が、進学・就職・起業・地域活動といったそれぞれの進路や取組にどのように生かされているかについて、具体的な事例を交えて紹介があった。また、地域で活動を続ける中で直面している課題や、試行錯誤しながら挑戦を継続している現状についても率直に共有された。短時間のプレゼンテーション形式であったことから、来場者は複数の事例に触れることができ、地域での多様な挑戦のあり方や、青年一人ひとりが地域の担い手となっていくプロセスを具体的に知る機会となった。本セッションを通じて、青年国際交流事業で得た経験が、個人の成長にとどまらず、地域社会での実践や次世代への波及につながっていることが示され、参加者が今後の事後活動や地域での関わり方を考える上での参考となる内容となった。

２．懇親意見交換会

C. 団体会員のブロックイベント(青少年国際交流を通じて国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい)

内閣府青年国際交流事業の既参加者の地域における活動の活性化を主な目的として、ブロックイベント（青少年国際交流を通じて国際社会への貢献を考えるつどい 第 2 部）を日本青年国際交流機構及び静岡県、青森県、広島県、東京都の 4 都県 IYEO と共催した。（2.A.(6)(a)参照）

その他、自主イベントである東海チャレンジャーズサミット（愛知県）を開催県 IYEO と共催した。

東海ブロック	愛知県	対面	令和 8 年 3 月 22 日

4. 青少年国際交流に関する出版物の刊行及び広報活動の概況

A. 機関誌の刊行

国内及び海外における青少年国際交流活動の紹介などを中心とした情報誌である「MACROCOSM」を年 1 回(A4 版)刊行した。135 号を 500 部発行し、関係箇所に配布するとともに、ホームページ上にも公開し、広く閲覧ができるようにした。

B. 一般財団法人青少年国際交流推進センター事業報告書の作成

令和 6 年度における内閣府青年国際交流事業及びこれに参加した青年による国際交流活動等の概要、青少年国際交流に関する情報や資料を収集、整理した「令和 6 年度事業報告書」を作成した。

C. ホームページ・オンラインメディアの活用

ホームページに当センターのロゴの解説や活動理念（Vision, Mission Value）を掲載し、センターの使命や価値観を紹介した。合わせて、Facebook、Instagram 等の SNS を活用し、事業の広報、参加者募集の呼びかけ等を行った。

（一財）青少年国際交流推進センターのホームページ

D. 一般財団法人青少年国際交流推進センターパンフレットの配布

当センターの事業内容を紹介したパンフレットの内容を改定し、日本語版、英語版を作成して広く配布した。

5. 青少年国際交流に関する情報収集及び調査研究の概況

A. 青少年国際交流事業に関する情報収集

内閣府の実施した青年国際交流事業の既参加青年等の名簿の整備を行った。

B. 青少年国際交流に関する調査研究

内閣府の実施した青年国際交流事業の既参加青年のその後の活躍状況について、日本青年国際交流機構の都道府県における各組織並びに「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業の事後活動組織を通じて調査を行った。

6. 青少年国際交流に関する支援・コンサルティング等の概況

A. 活動奨励金等の交付

都道府県団体会員の地域における国際交流活動の一層の活性化を図ることを目的に、「活動奨励金交付要領」に基づき、令和７年度は、27 都道府県の団体会員に対し 90 件 143 万円の活動奨励金を交付した。

「ブロック会議等に対する補助金の交付要領」に基づき、ブロック会議等における県外報告者の旅費及び外国青年の参加費の補助金の交付は 1 件だった。 ブロックごとの活動を促進することを目的に、「ブロック会議等に対する補助金の交付要領」を令和 5 年度に改定し、共同主催事業の補助金、共同主催事業の実行委員会謝金、共催事業の補助金支給を開始し、令和７年度は、共同主催事業の補助金・共同主催事業の実行委員会謝金については 4 県、共催事業の補助金支給については、愛知県に交付した。また、幹事推進委員へのブロック会議などへの参加の際に交通費の補助を行った。

B. コンサルティング事業等

1. ドイツの青少年国際交流団体である IJAB が、5 月 13 日～15 日に International Youth Policy Dialogue（国際青年施策に関する対話会議）をドイツのライプツィヒで開催し、日本を代表して当センターが招待を受け、職員が２名出席した。
2. 11 月 22 日～24 日にエジプトで行われた SWYAA 国際大会エジプト実施に当たり、理事長及び事務局長が参加すると共に運営支援を行った。
3. 11 月 28 日～30 日に自主事業のスタディツアーの拡充を図るため、事務局長がトルコのイスタンブールを訪問し、関係者と打ち合わせ及び事前調査を行った。

7. その他

「ありがとう。にっぽん丸」クルーズ

12 月 18 日～19 日に、設立 40 周年を迎えた IYEO の今後の更なる発展を願い、IYEO とセンターで企画協力し、東武トップツアーズ旅行企画・実施による記念クルーズを実施した。

令和 8 年 5 月に退役するにっぽん丸を懐かしむ IYEO 会員及び家族・友人、更には海外からも約 30 名の既参加青年を

日付	時間	イベント
DAY1 12月18日 （木）	15:30～ 16:00～ 17:00 18:00～ 20:00～	受付開始 乗船開始 名古屋港出港 夕食 お楽しみイベント
DAY2 12月19日 （金）	7:00～ 8:00～ 9:00	朝食 集合写真撮影 神戸港着 ※下船後解散

含めた約 300 名の参加者を乗せた「にっぽん丸」は 12 月 18 日夕刻に名古屋港を出港。翌日神戸港に着岸するまでの間、実行委員会がこの日のために準備した数々のイベントが催され、当センターはその運営に全面的に協力した。

クルーズ参加者との集合写真

本事業報告について、補足すべき重要な事項はないので、
附属明細書は作成しておりません。